

仁淀川町椿山集落における地域衰退の現状と課題に関する研究

1170450 中内 惇

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

本研究では、仁淀川町椿山集落における現状について整理を行い、課題を明らかにした。その結果、椿山集落では、過疎化や高齢化により地域消滅の危機、また山の不整備による山の機能の低下の問題、そして椿山集落に残る伝統文化の消滅の可能性が明らかになり、椿山集落のような中山間地域での地域活性化を求められる。

そして、椿山集落に残る伝統文化の継承が重要であると考え、伝統文化の伝承に関しての現状と課題を整理し対策を検討した。

2. 背景

現在、日本では人口の都市への一極集中化が進み、中山間地域の衰退や、消滅の危機が社会問題化している。中山間地域は、第一次産業を中心とする農業生産活動が多いため影響が大きく、地域衰退が激しく進行してしまう。衰退がそのまま進行してしまうと、人口の流出が起これ、過疎化や少子高齢化も伴い、地域としての機能が失われていってしまい、限界集落、消滅集落となっていってしまう。地域の衰退に伴い、その地に残る地域文化や、伝統文化を維持・伝承していくことも困難になり、衰退または消滅の危機にある。

現在の高知県は、人口減少の負の流れの中にある。県内の経済規模の縮小によって若者の県外流出が起これ、少子高齢化と過疎化が同時進行してしまっている。その中でも特に中山間地域の衰退が著しい。このため地域の活性化が求められる。

本研究の対象である、仁淀川町椿山集落は、主要産業であった林業・農業の衰退によって、若者が職を求めて地域外へと流出していくことで、大幅に少子高齢化・過疎化が進行してきた。その結果、現在の住民はわずか1名となり、限界集落を越えて消滅集落となりつつある。椿山集落は私の父の故郷であり、幼い頃からその地を見てきた。そして、消滅集落寸前とまで言われている父の故郷をこのまま人々の記憶から失われて行って欲しくないと考え、今後の椿山集落の取るべき施策を考えるようになった。椿山集落での事例を研究して

いくことは、今後も高知県の社会問題としてつきまとうであろうと考えられる中山間の問題において、一つの対策案として提唱できるのではないかと考える。

3. 目的

本研究は、高知県仁淀川町椿山集落の地域衰退に伴う文化衰退の現状を把握し、その中で今後の椿山集落における課題を抽出し整理する。整理した課題に対しての対策案を提案する。

4. 研究手順

本研究は、はじめに既往文献調査を行い、他の中山間地域の現状等を調査し整理する。そして、仁淀川町椿山集落での地域衰退に伴う文化衰退の現状をヒアリング調査・現地視察調査を通して把握する。最後に、椿山集落の伝統文化である、椿山太鼓踊りの再生策を提案していく。

5 仁淀川町椿山集落

5.1 仁淀川町の概要

椿山集落は、仁淀川町に属している。

仁淀川町は、平成17年8月1日、高知県の吾川村・池川町・仁淀村の3町村が合併して誕生した新町である。新町は、高知県の北西部に位置し、高知市からは約50km、車で約1時間半の距離となっている。広域的にみると高知市と松山市の間に位置し、両市を結ぶ国道33号や国道439号が交差する地域であり、北に四国山地、東西に仁淀川が横断する美しい自然に恵まれたところである。新町を流れる仁淀川は、愛媛県の久万高原町に源を発し、長者川、土居川などの数多くの支流を集めながら太平洋へと注ぎ込んでいる。地形は標高約100m～1,800mであり、山間部を形成している。集落は川沿いまたは山麓に点在しており、その一つが椿山集落である。

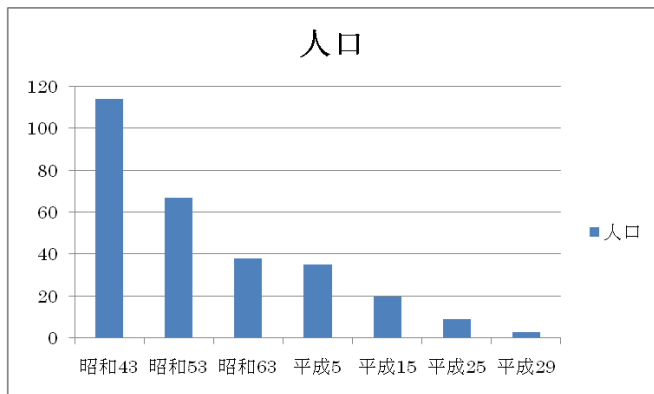


高知県

(図1) 高知県仁淀川町 (素材 Library.com より)

新町は、標高差が大きく、平均気温は山岳部が15℃前後で、冬季には積雪もみられるところがある。また、梅雨時の雨が多いこと、夏から秋にかけて台風の影響によるまとまった雨が多いことなどから、年間雨量は多いところで、2,500mmに達するなど、比較的温暖多雨な地域である。

この地域は、その立地条件を活かして農林業をはじめとする里山産業が古くから主体となっている。特に製茶業は県下でも有数の生産高を誇り、茶どころの地域として知られており、椿山集落でも製茶が行われている。



(図2) 椿山集落人口推移 (仁淀川町役場より)

椿山集落での人口は年々減少傾向にあり、増加した年はない。現在椿山集落で実際に暮らしているのは1名となり、地域消滅の危機である。

5.2 椿山の歴史

高知県仁淀川町椿山は、四国の最高峰石鎚山の南方、標高600~800mの急峻地にあり、秘境と言われた小さな集落で愛媛県と接している。昭和50年代中頃まで本格的な焼き畑農業が行われてきた集落でもある。

この地は文治の昔(1185年)、壇ノ浦の戦いに敗れた安徳帝を奉護する平氏、知盛、教経、教経、時子ら総勢80余人が阿波へ逃れ、次いで土佐に入り物部村を経て、本川村(現いの町)を經由してここ椿山で安住の地を求め三ヶ年の歳月を過ごされた数々の伝説が残されている。このことを裏付けるように、ここには国王山、王人、弓場などの地名が残されており、この時代この時椿山に先導した平家一族の滝本軸之進は椿山氏の祖となったという。

この集落の中心に位置し、「将軍地蔵」を本尊とする地蔵堂は、氏仏堂と呼ばれ滝本軸之進の子孫を名乗るこの地区の守護神として崇敬の中心となっている。堂内には、平家ガニをあしらった彫刻があり、また厨子の下には、安徳帝が椿山を去るにあたり、後車を託された滝本軸之進に賜った秘剣「百足丸」が蔵された「開かずの箱」が置かれており、本堂を解体しない限り開けることができない構造になっている。厨子正面観音開きの上段欄間に尾を交差して頭を左右して頭を左右の柱に出した竜、下段は実に素朴な裸身の人体像、両側面上段欄間には、尾に触れると頭を動かさずと言われる百足、下段はヤシ樹様の下に泳ぐ人魚、古色そう然とした仏前にひざまずく時、神秘的な崇厳さと一種の魅力を覚える。

6. 椿山の現状

現在の椿山集落は、限界集落を越えて消滅集落となりつつある。元々、椿山は農業と林業を主要産業としてきた。日本の産業構造の変化に伴い、第一次産業が衰退し、特に椿山集落は中山間地域の中でも更に山中に存在する地域であったため、影響が大きかった。第一次産業の衰退によって仕事が減っていき、椿山集落から若者が流出し、過疎化と高齢化が進んだ。そして住民が1名となり、地域として機能していない。その最後の住民の方も、高齢の女性の方であり、椿山では長くは暮らしていける状況でなく、近いうちに住民がいなくなる可能性が高い。

椿山集落に続く道も、通る人がいなくなれば整備もされなくなり、アクセスもできなくなる可能性がある。現在は何名かの元住民の人々が、週に何度かUターンしている為、道も問題なく通ることができる。しかし、それでも通るたびに小石や、大きな石が転がっており、その都度除去している。小規模ではあるが、土砂崩れが起きている場所もあり、安全とは言い難い。

また、椿山集落に住む人には山を土地として所持していた住人の方がいたが、現在は手入れの行き届いていない天然林となっているところが多々ある。その為、山としての機能が十分に発揮されていない。山としての機能が低下してしまうと土壌の流出が起こってしまい、前にあげた道路状況や安全性にも関わってくる。土砂崩れの危険性のある場所に進んで寄ろうとする人々はいないため、自然と足を運んでくれる人々も減ってしまう。更に、椿山は仁淀川の上流部であり、椿山の山としての機能の低下は、多くの町や地域に悪影響を及ぼしてしまう。

最後に、椿山は平家落人物語の伝説が残る地であり、魅力的な伝統文化が残っている。椿山太鼓踊りや虫送りはその一例である。しかし、過疎化と高齢化が進んだ椿山集落はその伝統行事を維持・伝承していくことが難しくなりつつある。この無形文化財に指定された椿山太鼓踊りが失われてしまえば、町によって行われる道路整備もなくなる。元々、この伝統行事は単なるイベント等ではなく、地域の人々にとって神聖な行事であった為、古くからの形を守る意味でも一般の人が簡単に参加していくという形がとり辛かったので、維持・伝承がうまくされてこなかったのではないだろうか。

以上のような問題点より、椿山地区での「地域の活性化」が求められると考えた。

7 先行事例研究

7.1 中山間での地域活性化先行事例調査

中山間での地域活性化の先行事例として、3つの地域において、参考文献(3)をもとに調査を行った。①愛知県足助町、②岐阜県明宝村、③岩手県川井村の3つの地域である。

i 愛知県足助町

・足助町のまちづくりの原点となった「香嵐溪」は、先人の知恵、そして意思を生かした住民の行動により生まれた。

・「街並み保存運動」は民間と行政の協力により始まった。そこからゼミ開催に繋がり、住民のまちづくりに対する機運の高まりを呼んだ。

・リゾート開発等のような地域性から離れた取り組みを行うのではなく、地域資源を生かした町づくりを行ったこと。

・「女・老・外」という考え方の元、女性、高齢者、外からの人材を活用した地域興しの取り組み。

ii 岐阜県旧明宝村

・名宝村の人々が危機感と自立意識を持っていた。

・女性の活躍、雇用の創出、成果を上げていく中で地域に自信が生まれた。

・自治体名の変更(明方→明宝)や、音楽祭の開催なども、「明宝」というブランド力の強化に寄与した。

・最初に取り組んだ名宝ハムの成功体験とノウハウがほかの事業の成功の大きな要因となった。

・地域特性を活かした産業おこしと観光を主軸とした地域づくりを目指した。

iii 岩手県川井村

・地域資源の徹底的な活用による新商品の継続的な開発。

・自身で考案した商品のヒットが大きな自信に繋がった。

・地元製品のPRを目的にイベントを季節毎に次々と実施しており、施設の集客にも一定の効果を挙げる結果となっている。

・村や有志が主催して各種イベントを開催し、その商品の事業展開や次の商品開発のヒントを得るべく努力しており、これが継続的・持続的な商品開発に繋がった。

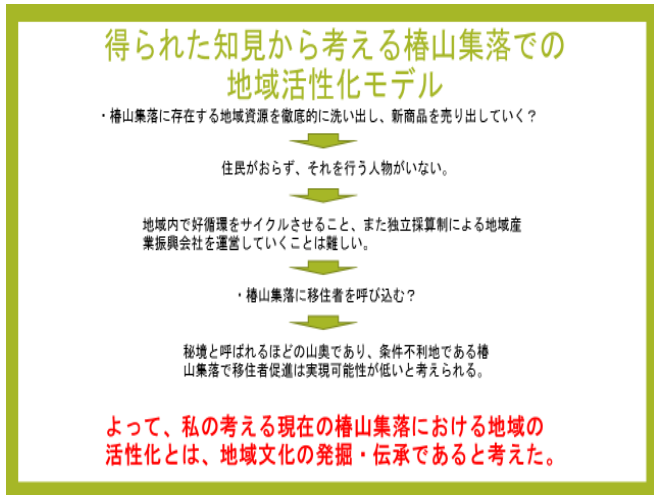
7.2 先行事例研究で得られた知見

3つの地域活性化の先行事例調査を通して、特に地域活性化に繋がった要因を整理した。①地域内で好サイクルを循環させること。②地域産業興しに興味・関心がある団体、個人から始まって、そこから様々な関係者を巻き込んで行き、話し合いの積み重ね・継続から新しい知恵を生み出す。③独立採算制による地域産業振興会社を運営すること。④地域を知ってもらうこと。広告宣伝戦略によって、知名度・関心を消費者から離さない。⑤地域の産業振興を行っていく上で、地域資源を徹底的に洗い出すという作業が必要である。⑤地域文化の発掘・伝承はとても重要である。それぞれの事例には個々特有の要因も見られたが、共通した要因も見ることができた。特に地域資源の洗い出しを行い、それを売り出していくという点においては共通して見られた。それが成功することで、自らの地域に自信や誇りを持つことに繋がり、更に活動が活性化され、地域の様々な人々を巻き込んで行くことに繋がっていた。地域住民が自分達の地域に自信や誇りを持つことで、地域に活力が生まれていた。地域資源を売り出すだけではなく、地域文化を大切にし、継承していくことも、地域をつなぎ止め、地域住民が自分たちの地域に誇りを持つ

ことに繋がっていた。中山間地域において、文化伝承が地域存続に重要な役割を持つということも分かった。

7.3 椿山地区における地域活性化モデル

この事例を椿山集落と照らし合わせ、椿山集落における地域活性化手法を考えた。



(図3) 筆者の考える椿山集落の地域活性化方策について

図3より先行事例で取り上げたような成果を、椿山集落でもあげることは難しいと考えた。Iターン、Uターン者、移住者を増やし過疎化、少子高齢化に取り組み、独立採算制のある会社等を運営していくことができれば、椿山集落活性化の成功の1つであると言えるかもしれない。しかし、それが可能であるとは言い難い状況である。3つの先行事例に共通していた点として、地域が地域として機能して住民がいる状況から対策、行動していた。しかし、現在の椿山集落の住民は1名であり、また中山間地域の中でも更に山奥で秘境とすら呼ばれる椿山集落に、人を呼びこんで、復興会社を立ち上げてというような方策をとることは極めて実現可能性が低いと考えた。

そこで私は、改めて椿山集落における地域活性化とは何なのかを考察した。その結果、現在の椿山集落における地域活性化とは、伝統文化の伝承だと考えた。椿山地区が存在したこと、伝統文化や伝説、過去を絶やさず、次世代へと残していくことが地域活性化の一つであり、現在の椿山集落において重要なことであると考えたからである。

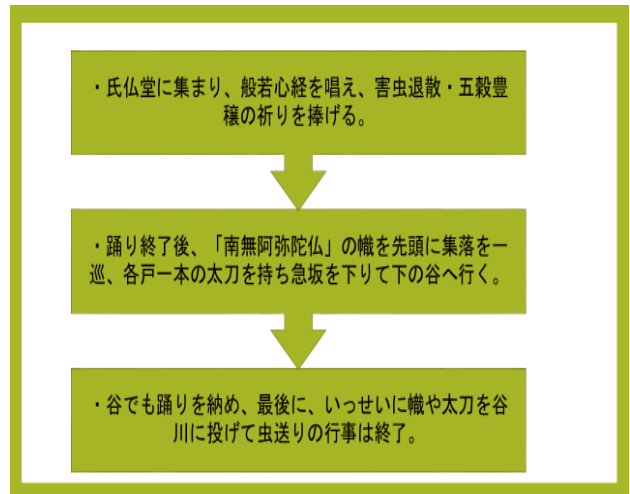
8 椿山伝統文化

8.1 虫送り・太鼓踊りの歴史・文化

椿山に残る伝統文化として、「虫送り」があり、その虫送り

の際に奉納される踊りが「太鼓踊り」である。

椿山の伝統行事である「虫送り」は、平安時代、齊藤別当実盛が源義仲に敗れ、亡霊が稲の害虫になった言い伝えから、供養と豊作を祈ったことが起こりといわれている。



(図4) 虫送りの手順

虫送りの際に奉納される太鼓踊りは、安徳帝の子守歌として、また平家の武将や公達の霊を慰める祭りとして、毎年古式通りに奉納され、数多くの伝説とともに、椿山集落の人々に受け継がれてきたものである。椿山集落の中心地にたつ氏仏堂で供養として、年5回奉納される「太鼓踊り」は、たき火を中心に囲み直径70cmほどの大きな締太鼓を前につけ、鉦を調べとして、こぶしの木を薄く削った白いシデ房を付けた両撥で太鼓を叩きながら歌に合わせて踊っていく。踊りは一見単調に見えるが、唄と太鼓を囃しながらの難しさがあり、ゆっくりとしたテンポに演者すべてが揃わないとリズムを崩すデリケートな面を持っている。境内の700年歴史を秘めた老杉が、たき火の火影に夜空高く浮き上がるその下で、円陣の踊りが実にゆるやかな歩みで舞い進み、頭上に振りかざした撥の白いシデ房が、手足の運びより1拍遅れ揺れ落ちる様が、火影に映えて美しく古式豊かなムードが繰り広げられる。

平成3年28日に池川町(現仁淀川町)無形文化財に指定されている。

| 奉納日 | 内容 |
|-------|--------------|
| 6月20日 | 虫供養「しのびのおどり」 |
| 8月 3日 | 氏仏祭 |
| 8月 4日 | 若仏祭 |
| 8月14日 | 盆供養 |
| 9月 5日 | 先祖供養「さんばれ」 |

(図5) 太鼓踊り奉納日

9 仁淀川町役場（教育委員会）と太鼓踊り保存会を対象としたヒアリング調査

9.1. 1 仁淀川町役場（教育委員会）

(1) 目的：椿山太鼓踊りの伝承に関する行政から見た現状と課題を明らかにする。

(2) 対象：役場女性職員さん（30代）を対象に調査した。

(3) 日時：平成28年12月1日。

(4) 方法：椿山太鼓踊りの現状やそれに対する思い、今後の展望等のヒアリング項目について伺い、整理した。

9.1. 2 太鼓踊り保存会

(1) 目的：椿山太鼓踊りの伝承に関し、保存会から見た現状と課題を明らかにする。

(2) 対象：太鼓踊り保存会会長さん（50代）を対象に調査した。

(3) 日時：平成29年1月15日

(4) 方法：椿山太鼓踊りの現状やそれに対する思い、今後の展望等のヒアリング項目について伺い、現場の声を聞き整理した。

10 ヒアリング結果

10.1 仁淀川町役場（教育委員会）

ヒアリング調査より、椿山太鼓踊り伝承に関する現状がわかった。行政の立場としては、椿山太鼓踊りは残していきたいという気持ちがあった。行政からは、年4万2千円ほどの補助金や芸能祭・清流祭の活動を行っているが、今後どのような新しい取り組みを行っていくのかに関しては、詳しい回答を得ることはできなかった。今後もほそぼそと活動していれば、いつか何かかわるかもしれないという考えであり、現状を改善していく強い気持ちは感じられなかった。

椿山集落が衰退し、椿山太鼓踊りの後継者不足などの問題があり、解消していかなければならないという認識はあった。しかし、地区内に存在する文化1つに対して力を入れること

は、合併の弊害によって難しい現状があり、もどかしさを感じているように見えた。今後仁淀川町が、一つになっていかなければならないことを問題視していた。

椿山集落の現状と、椿山太鼓踊りの後継者不足の問題を把握はしているが、今後積極的に行動を起こしていくようには感じることはできなかった。

10.2 椿山太鼓踊り保存会

椿山太鼓踊り保存会は、昭和四十三年に結成された。長い伝統を持つ太鼓踊りも、踊保持者が少なくなり中途絶えの可能性があったため、文化の中途絶えをさせないために結成された。

太鼓踊りは、椿山のシンボルであり、また歴史があるこの伝統文化である太鼓踊りをなくすことは先祖に対して失礼であるという思い、使命感、そして誇りを持って取り組んでいた。また、祭りは氏子や地域の人々のコミュニケーションの場でもあり、地域をつなぎとめるものであるという認識もあった。しかし、仲間内でわいわい楽しく踊ることが出来たらいいという考えの一面もあり、そこからは文化を残していくという気持ちの希薄化が感じられた。

今後もこの伝統文化が後世へと受け継がれていってほしいと考えているが、現在も後継者不足の問題に悩まされており、仁淀川町役場の協力なしでは、継承が難しくなっている。もともとは、踊りを見る中で自然と親から子へと受け継がれてきたが、過疎化の進む椿山集落では出来なくなっていくことが分かった。

10.3 ヒアリング結果（まとめ）

ヒアリング調査より、椿山太鼓踊り保存会の方々も仁淀川町役場の方々も魅力的な伝統文化を残していきたいという気持ちがあるのが分かった。

しかし、話を伺う中で問題点も浮かび上がった。役場の職員の方々は、伝承していく為に協力してはいるが、仕事としてという側面からであるという考え方が見えた。残していく気持ちはあるが、自分たちから行っていくというよりは、サポートしていくという立場で、現状維持で何かアクションを起こしていくというような強い気持ちは感じられなかった。

椿山太鼓踊り保存会の方々は、役場の方々よりは太鼓踊りに対する思いの強さは感じられた。だが、残したい気持ちがあつて、その為にどのような行動をしていくのかといった具

体的な方策などは考えられてなかった。

11. 椿山太鼓踊り伝承過程の現状

・椿山太鼓踊りの作法や踊りの伝承については、元は親から子へと、踊りを見る中で自然と受けつがれてきたので、過疎化の進んだ現在の椿山集落では、昔の形での伝承が難しい。そのため、仁淀川町役場の方と協力して伝承している。

・虫送りや、太鼓踊り奉納日に見学に来ている方達に参加の呼びかけを行っているが、以前後継者が充実してはいない。

・氏仏堂での奉納は、あまり広くないため、ほとんどが氏子だけでの奉納になり、役場の方はあまり参加することはない。

・氏子の方々は、太鼓踊りに誇りをもって取り組んでおり、椿山太鼓踊りは椿山集落においてなくてはならない存在であるという認識があった。

・椿山太鼓踊りは、住民が1名となった現在でも、Uターン者や氏子など、地域を繋ぎとめる存在であり、またコミュニケーションの場でもある。

12 伝承にあたっての問題点

12.1 椿山太鼓踊り保存会の問題点

・現在、椿山太鼓踊りの伝承には、14名程度の方が従事しているが保存会、青年団の中で現在の椿山集落で暮らしている方はおらず、練習なども簡単に集まってできる環境がない。

・新たに参加する人や参加志望の方を迎え入れる準備がない。(集会や練習制度など)

・現在の椿山太鼓踊りが直面している状況に対しての危機感があまり感じられなかった。ヒアリングの際に、仲間内でわいわい楽しく踊れたらという言葉もあったので、椿山太鼓踊りに対しての思いの希薄化が起きていると考えられる。

・後継者不足であり、またその後継者を増やしていくような仕組み作りもない、危機的な状況であった。

12.2 仁淀川町役場の問題点

・仕事としての関わりであるという認識が強く、自分も長い伝統を守っていく後継者の一人であるという強い思いまでは感じられなかった。

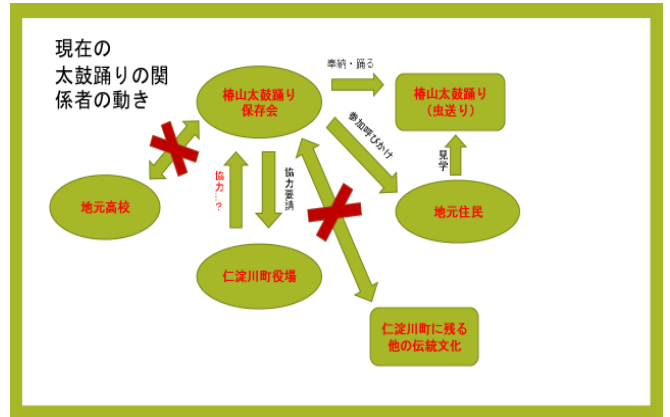
・間接的に関わっていくという立場であったとしても、今後の展望としてどのような行動をとるのかの方策を模索する必要がある。

・椿山太鼓踊りの情報発信がほとんどされていない。(芸能祭などの広告も町内のみ)

・今後の展望がなく、保存会が行動するのを待ってしまっている状況は改善すべきである。また、保存会とは温度差を感じられた。

13. 後世へと引き継いで行くための文化伝承の提案

椿山集落の現状と課題より、私は2つの方策を提案している。



(図6) 現在の太鼓踊りの関係者の動き

①1つ目は、保存会と役場共に今後の具体的な展望を決定していくことである。まず議会を開き、意見交換をしていくべきだと思う。そこで互いの意見を交わし、具体的な展望を決めていくべきだと思う。そこで役場と保存会での温度差、を解消し、文化を伝承していくという目標に向かって1つにならなければならない。また、新規参加者への教育制度を作っていくこと。後継者問題に取り組むのに当たって新規参加者への教育制度がなければ、参加しづらく、新規参加者にとっては不安要素になりうるからである。次に太鼓踊りを知ってもらうための広告宣伝戦略を展開していくことである。椿山太鼓踊りを知ってもらって、足を運んでもらう事ができれば、そこからまた情報が広がると考え、新規参加者を呼びこむことに繋がると考えたからである。最後に、活動拠点を広げることである。太鼓踊りは基本的には氏仏堂での奉納になるため、人が集まりにくい。練習等を町の施設を借りて行うことができれば、参加人数の多い質の高い練習ができると考えたからである。

②2つ目は、繋がりを広げていくことである。太鼓踊りは元々親から子へと伝承されてきたが、現在の椿山集落においてはそれが難しい。そこで地元高校への総合学習を通して、椿山太鼓踊りを知ってもらい、経験してもらうことで、将来的に保存会に所属してもらう可能性が生まれるのではないかと

と考えた。過疎化が進む現在の椿山集落では、もともとの親から子へと伝承されてきた形をとることは難しいので、他の協力が必要となってくる。

椿山太鼓取りは、他の伝統文化との関係があまりない。同じ仁淀川町の中にある伝統文化同士が繋がって行けば、そこから新たな情報が入り、また情報が広がる可能性が生まれると考えた。例えば、他の伝統文化が招待されているイベントなどに一緒に声をかけてもらうことができ、参加することに繋がるのではないだろうか。

また、互いの伝統文化同士で興味を持ち合うことができれば、そこから他の伝統文化の後継者の1人になっていくことにも繋がるかもしれないと考えた。そして伝統文化同士の繋がりには、改めて伝統文化の存在意義を再確認出来る場にもなるのではないかと考えられる。

14 研究のまとめ

- ・現在の椿山集落に求められることは、地域文化の継承であると考えられる。
- ・ヒアリング調査の結果、保存会と役場共に椿山集落の消滅集落寸前である事実と、伝統文化の後継者不足の問題に対して、積極的ではなかった。
- ・椿山集落の伝統文化に従事する元住民の方達は、太鼓踊りや虫送りそして故郷に対して誇りを持っていたが、思いの希薄化は感じられた。
- ・また、役場の文化伝承に対して積極的になるべきであり、取り組みに関しての温度差の解消が求められる。
- ・現在の状態では、椿山集落の伝統文化を今後も絶やすことなく継承していくことは難しいと考えられる。保存会、役場共に現状を受け止め、今後どのように継承していくのか、具体的な方針、そして仕組み作りが求められる。
- ・そして、魅力ある椿山集落や伝統文化が人々の心から忘れられないよう、生き続けていくように伝承していくことが求められる。

15 今後の課題

- ・仁淀川町に残る伝統文化として、仁淀川町全体で盛り上げていかなければならないが、合併の弊害により仁淀川町が1つになりきれていない。
- ・他の伝統文化がどのような取り組みによって伝承を行っているのかを調査し、比較する。

・保存会と役場それぞれの立場によつての伝承に関する温度差、またその組織内での従事者それぞれの人達の温度差を解消し、伝統文化を残していくという目標に向かって全員の意志の統一が求められる。

引用文献・参考文献・協力者

- 【1】 仁淀川町役場ホームページ
- 【2】 椿山太鼓踊り保存会冊子
- 【3】 中山間地域の産業振興策について～福島県奥会津地域・三島町をモデル地域として～（日本政策投資銀行）
- 【4】 仁淀川町役場職員の方々
- 【5】 椿山太鼓踊り保存会会長
- 【6】 高知県産業振興計画
- 【7】 素材 Library.com

